

Strategy[฿]

最新BI 移行ガイド

レガシーから次世代システムへ：
最新アナリティクスへのスムーズな移行方法

エグゼクティブブリーフ

現在SAP BusinessObjects、IBM Cognos、その他のレガシーBIプラットフォームを利用している組織は、コストの上昇、サポートの縮小、ユーザーのニーズと、システムの提供能力との間に広がるギャップといったプレッシャーを感じているのではないのでしょうか。

本ガイドは、老朽化したアナリティクス環境から、拡張性、柔軟性、洞察に優れた最新のAI搭載プラットフォームへの移行を進めるためのロードマップをご紹介します。現在使用中のツールがサポート終了に差し掛かっている場合も、単にニーズに応えられなくなっている場合も、何もしないことによるリスクが顕在化する前に、今こそ行動を起こしましょう。

移行は将来への投資であり、行動しないことはリスクです。

本ガイドの内容

レガシーツールがもはや適さない理由

隠れたコストやリスク、そして最新化が必要であることを示す明確なシグナルを理解しましょう。

移行準備の進め方

チームの連携、データの整備、段階的な計画の設計によって、よくある落とし穴を回避しましょう。

教訓とベストプラクティス

迅速に移行を実現した企業の実践的な移行戦略と、そこから得られた教訓をご覧ください。

レガシーBIプラットフォームは終焉を迎えつつありますが、レポートのニーズはなくなりません。本ガイドでは、妥協することなく、自信を持って、戦略的に前進するための道筋を示します。



レガシーツールがもはや適さない理由

現在SAP BusinessObjectsやIBM Cognosを利用している場合、残された時間はわずかしかなりません。BusinessObjectsは2026年にサポート終了を迎えます。Cognos 11はすでにサポート対象外となっており、最新版のCognos 12では中核的な機能が削除されています。しかも「アップグレード」と称されるものは、既存環境を引き継ぐことができず、不慣れな環境で一から作り直さざるを得ないのが現実です。

Witold Przegaliński

プリンシパルコンサルタント

“ 「レガシーBIは一夜にして動かなくなるわけではありません。パフォーマンスと信頼を静かに蝕み、やがて管理不能な状態に陥るのです。」

主なリスク:

- ベンダーによるサポート終了やライセンスの廃止
- レガシーシステムの障害やパフォーマンス低下
- 脆弱なシステムの維持に費やされる人的リソース
- コンプライアンスおよびガバナンス上のリスク

一方で、リスクは増大し続けています。サポートが終了したプラットフォームは、セキュリティ上の脆弱性やコンプライアンス上の欠陥、さらには運用停止といった問題に直結します。ユーザーの不満は高まり、回避策の利用が常態化します。その結果、隠れた人的コストや統合コストによって総所有コスト（TCO）はじわじわと膨らんでいきます。

待つことが安全策のように思えるかもしれませんが、それは最もリスクの高い選択肢のひとつです。対応を先延ばしにすれば柔軟性は失われ、結果的に拙速で受動的な移行を強いられることになりかねません。賢明な選択肢は何でしょうか。まだ十分な時間がある今のうちに、継続性、管理性能、最新化を視野に入れて計画的に移行を進めることです。

チェックリスト:

- サポート終了のタイムラインを確認する（例：BOBJ 2026、Cognos 11）
- 必須の重要機能を特定する
- 回避不能な混乱が起きる前にステークホルダーを巻き込む

移行すべきタイミングを見極める方法

レポートの作成に数日を要したり、ダッシュボードの更新のたびにIT部門に依存しているのであれば、既存のBIシステムはすでに足かせとなっているということです。レガシープラットフォームは単に遅いだけではありません。柔軟性に欠け、維持コストがかさみ、事業成長を阻む見えにくいボトルネックとなっているのです。

全社的なシステム監査を実施しましょう。壊れたダッシュボードを修正するだけでは不十分です。利用状況、サポートチケット、ユーザーからのフィードバックを精査し、摩擦が生じている箇所を特定することが重要です。

Witold Przegaliński

プリンシパルコンサルタント

“ 「何が必要かを判断する前に、まず現状を正しく理解することが重要です。」

アップグレードのサイン:

- ユーザーからの苦情が多く、利用の定着が進まない
- レポート作成、承認、配信に遅延が発生している
- モバイルワークフローやハイブリッドアーキテクチャへの対応が不足している
- 論理修正や維持に過度の管理工数が割かれている

モダンBIプラットフォームが提供すべきもの

モダンBIプラットフォームは、単なるダッシュボードツールではありません。エンタープライズ規模のレポート、スケーラブルなパフォーマンス、ガバナンスの効いたセルフサービス、モバイル対応、そしてAIによる洞察を、統合されたアーキテクチャのもとで提供できなければなりません。

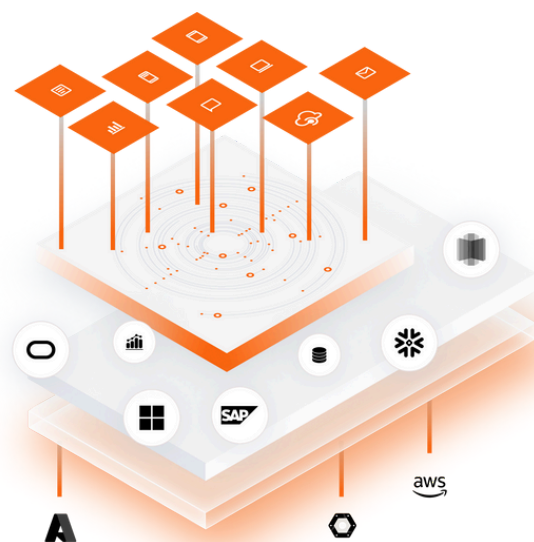
必須機能:

- セマンティックレイヤーと再利用可能なロジック
- ページネーション対応かつピクセル単位で正確なレポート
- エンタープライズ規模のバースティングとスケジューリング
- クラウドネイティブかつコンテナ化されたデプロイメント
- AIとの統合およびモバイルユーザーエクスペリエンス

Power BIやTableauといった多くの一般的なツールは、可視化の面では優れていますが、ガバナンス、スケーラビリティ、自動化といった領域では不足があります。一方、Strategy Oneはアナリティクス、バースティング、AI、スケジューリングといった機能をすべて、統合されたアーキテクチャのもとで提供します。

エンタープライズ対応性を見極める質問：

- 1万件以上のスケジュール済みレポートに対応できるか
- 非技術系ユーザーがIT部門に頼らずにレポートを作成できるか
- アーキテクチャは拡張性、コンプライアンス、そしてイノベーションに対応できるか



Strategy One はクラウドに依存せず、AWS、Azure、Google Cloudをはじめ主要なプラットフォーム上に展開可能です。Snowflake、Databricks、BigQuery、Redshiftなど、あらゆるデータウェアハウスやデータレイクと接続できます。強力なセマンティックレイヤーにより、Power BI、Tableau、Excel、Google Sheetsといったツール間で一貫性のあるガバナンス付きアクセスを実現します。これにより、データとアナリティクス基盤全体にわたって柔軟性と相互運用性を確保することができます。

Witold Przegaliński

プリンシパルコンサルタント

“「自社の成長目標に合わせてスケールできるプラットフォームを選びましょう。」

移行準備の進め方

モダナイゼーションは単なる技術的移行ではなく、戦略的なリセットです。成功する移行の第一歩は、明確なロードマップ、ステークホルダーの合意形成、そして技術的負荷だけでなくビジネス価値に基づいた段階的な計画から始まります。

移行を単なるリフト・アンド・シフトとして扱ってはいけません。むしろ以下を行うための好機と捉えるべきです。

- 機能しているものは再現する
- 不十分なものは最新化する
- もはや使われていないものは廃止する



まずは準備状況の監査から始めましょう。データは整備され正しくマッピングされているか、依存関係を十分に把握しているか、チームが必要なスキルを備えているか、あるいはトレーニングが必要なのか、そしてステークホルダーがビジネス目標やスケジュールに合意しているかを確認することが重要です。

移行準備の必須チェックリスト

- **現状評価:** 課題、パフォーマンス指標、主要ダッシュボードやデータソースを把握する
- **データの完全性:** 不整合や重複を監査し、マッピングおよび検証計画を立てる
- **スキルと専門知識:** 不足しているスキルを特定し、専門家を起用して役割を明確化する
- **変更管理:** エグゼクティブスポンサーを確保し、エンドユーザーを教育し、早期にメリットを伝える
- **予算とリソース:** 総コストを見積もり、不測の事態を織り込んで、専任スタッフを配置する

基盤が整っていなければ、移行の準備ができていたとは言えません。そして、その段階を飛ばせば、後に必ず大きな問題となって跳ね返ってきます。

何を移行すべきか

すべての資産に「第二の人生」が必要なわけではありません。この機会を活用し、本当に再現する価値があるものを見極めましょう。

資産を分類する：

- **必ず移行すべきもの：** ミッションクリティカルなダッシュボード、KPI、コンプライアンスレポート
- **最新化すべきもの：** UXやパフォーマンス改善が必要なダッシュボード
- **廃止すべきもの：** 陳腐化した、または付加価値の低いコンテンツ

Przemysław Życzkowski

シニアコンサルタント

“「最良の移行とは、単なる置き換えにとどまらず、再設計の好機となります。」

Strategyは次の3つの移行アプローチすべてをサポートしています。

- **リーダーシップ：** すべてを再現し、即時的な継続性を確保する
- **統合：** 重複を削減し、レガシー資産を整理する
- **イノベーション：** AI、アプリ、新しいワークフローを活用してレポートを再構築する

どのアプローチを選ぶにせよ、鍵となるのは明確さです。重要なレポート、再利用可能なロジック、依存関係を把握しましょう。セマンティックレイヤーは早い段階で構築し、ユーザーを最初から巻き込みます。トレーニングと変更管理は後から考えるのではなく、最初から計画の一部として組み込むことが重要です。

主要アクションポイント

- 資産の利用状況、価値、陳腐化を整理したインベントリを作成する
- 早期の成果につながる高インパクトなレポートを優先する
- ビジネス部門とIT部門の成果目標とタイムラインを揃える
- 段階的なカットオーバーとロールバック戦略を定義する
- 初日からユーザー教育とサポートを実施する

利用状況を分析することで、取り組みの指針としましょう。複雑または非効率なロジックは再考すべきです。現状のまま移行すれば、既存の問題をそのまま引き継ぐことになります。

継続性の確保

継続性とは想定外をなくすことです。そのためには、データだけでなく、ロジック、スクリプト、設定も含めたバックアップを行い、ステージング環境やデュアルラン環境を活用した段階的な展開戦略を策定することから始めます。そのうえで、早期かつ継続的なコミュニケーションを徹底することが不可欠です。

この段階で重要なのは綿密な計画です。統合ポイントやリスクの高い依存関係を特定し、並行テストや段階的な本番移行を組み込むことで、ダウンタイムを回避または最小化することができます。

Witold Przegaliński

プリンシパルコンサルタント

“ 「継続性は偶然の産物ではなく、綿密な計画によって実現されます。」

移行にはどのくらいの期間が必要か

中規模の組織であれば、データが整備され、経営層の合意が得られ、ユーザーが積極的に関与している場合、通常8～16週間で移行を完了できます。

移行を加速させる要因

- ✓ 整備され文書化されたデータ
- ✓ 移行フェーズごとの限定的なスコープ
- ✓ 現実的な期待と経営層の合意
- ✓ 専任のプロジェクトチーム (社内およびパートナー)

移行を遅らせる要因

- ✗ 文書化が不十分なレガシーロジック
- ✗ プロジェクト途中でのステークホルダー交代
- ✗ 本番移行後まで関与しない低いユーザー参加率

経験則： 移行期間は2～4か月を見込む。柔軟性を組み込む。常に試験運用から始める。

移行にはどのくらいのコストがかかるのか

移行にはコストがかかりますが、正しく進めれば効率的で費用対効果の高い取り組みとなります。短期的にはライセンス、コンサルティング、トレーニング、インフラといった支出が必要ですが、真のROIは、IT部門のボトルネック、本来自動化されるべき作業の人手対応、ガバナンスの不備といった隠れたコストを排除することで得られます。

さらに、Strategy Oneの統合アーキテクチャによって将来のアップグレード時に全面的なプラットフォームの再考が不要となり、長期的なTCO削減を実現できます。

Witold Przegaliński

プリンシパルコンサルタント

“「コストが低いことは、必ずしもリスクの低さを意味しません。特に大規模展開では注意が必要です。」

計画に織り込むべきコスト要因:

- **実装:** ツール、コンサルタント、データ準備
- **トレーニングと定着化:** エンドユーザーのオンボーディング、ドキュメント整備、サポート
- **インフラ:** クラウドサービス、ライセンス、スケーラビリティ
- **保守運用:** 社内スタッフ、パートナーのSLA、定期的な最適化

7ステップで進める移行ジャーニー

移行を成功させるには、緻密に計画された段階的なプロセスが欠かせません。ステップを飛ばしたり、スケジュールを短縮しすぎたりすれば、コスト超過や手戻り、新プラットフォームへの信頼喪失を招くのが常です。SAP BOBJ、Cognos、その他のレガシーツールからの移行であっても、基本となるステップは変わりません。

各フェーズにはそれぞれ特有の速度と複雑性があります。段階を踏んで進めることで、不測の事態を最小限に抑えることができます。

移行に向けた準備が整ったら、ぜひ貴社の状況に即した移行プランについて当社の専門家にご相談ください。

移行ステップ

アクション

1 調査と評価

レポート、データソース、ユーザーの役割、課題、パフォーマンス上の問題を確認し、現状を把握します。

2 定義と合意形成

ビジネス目標と移行範囲を明確にし、経営層のスポンサーを確保して、ステークホルダー間でタイムラインを調整します。

3 準備と計画

レポートを移行、最新化、廃止に分類し、テスト基準、ユーザーの役割、トレーニング計画、カットオーバー戦略を定義します。

4 構築と検証

新環境を構築し、主要資産を再構築または最適化しながら、データ精度とパフォーマンスを検証します。

5 トレーニングとサポート

体系的なトレーニング、ドキュメント、実践的なガイダンスをユーザーに提供します。

6 導入と監視

移行は可能な限り段階的に進め、本番稼働後はパフォーマンス、利用状況、定着度を監視し、ロールバック計画を準備しておきます。

7 最適化と拡張

本稼働後にはダッシュボードを改善し、フィードバックに基づいて調整しながら、利用範囲を拡大します。

Witold Przegaliński

プリンシパルコンサルタント

“

「土台づくりを省略することはできません。堅実な移行は計画的に進めるものであり、各フェーズが次のフェーズを切り拓いていくのです。」

教訓とベストプラクティス

移行は単なる技術的作業ではなく、戦術的な取り組みです。不一致の可視化からユーザーの不満まで、BIツール移行の際によく見られる課題と、それをStrategyがどのように解決するかをご紹介します。

課題

チャート特性の不一致

ツール間でビジュアライゼーションが正しく対応せず、軸、色、フィルター、書式が崩れたり挙動が変わることが多い。

Strategyの解決策

ビジュアルレイヤーはカスタマイズ可能で、標準に準拠し、移行を前提に設計されています。Strategy Oneは柔軟なチャートロジックに対応し、再構築を迅速化しつつ一貫性を維持できるテンプレート化されたビジュアルフォーマットを提供します。

セマンティックレイヤーの断絶

BIツールごとにデータ構造が異なり、レガシーのセマンティックレイヤーには他環境に移行できない独自ロジックが含まれることがある。

Strategyセマンティックグラフは、フロントエンドツールから切り離された統合的かつ再利用可能なデータレイヤーを構築します。この中央基盤により、複雑さを削減し、ダッシュボード、ボット、モバイル、組み込みアプリ全体で一貫したガバナンスを実現します。

ダッシュボード再設計の負担

レイアウト、ドリルパス、フィルターが正しく移行されず、機能が失われることがある。

Strategy Oneはクロスフィルタ、ドリルダウン、タブといった高度なインタラクションをネイティブにサポートします。ダッシュボードはドラッグ・アンド・ドロップ設計や再利用可能なコンポーネントを用いて再構築できます。

ユーザー再教育への抵抗

新しいツールは従来のワークフローを乱し、実践的なサポートがなければ定着が進まない。

組み込みチュートリアル、コンテキスト対応ツールチップ、役割別テンプレートにより、オンボーディングが容易になります。さらに、Strategyのパートナーエコシステムはニーズに合わせたトレーニングプログラムも提供しています。

自動化の限界

移行ツールだけでは不十分であり、手作業による再構築が必ず必要になる。

Strategyでは、ガイド付きの自動化と専門家による構成支援を融合させています。当社パートナーはこれまで数多くの移行を支援してきており、自動化の限界と、戦略的な対応が必要となるポイントを熟知しています。

ダウンタイムゼロで迅速移行：ある実際の移行事例

ある世界的なエンターテインメント兼ストリーミング企業は、重要な広告業務を中断させることなく、長年使い込まれたレガシーBIスタックを退役させるという重大な課題に直面していました。SAP BusinessObjectsを20年間使用した後、同社は全面的なモダナイゼーション計画を始動しました。しかし社内チームはリソース不足に悩まされ、スケジュールは逼迫しており、失敗は許されない状況でした。

主な優先事項：

- **広告セールスの負債管理：** Strategy Oneが、ネットワーク全体の広告配信、収益性、契約上の負債に関するリアルタイムの洞察を提供。
- **アップフロント分析：** 地域ごとの広告在庫、ターゲットとなるデモグラフィック、マーケティング投資を可視化。
- **在庫予測：** 営業チームがコンテンツの利用可能期間や市場の飽和度に基づいて、広告枠の価格設定とポジショニングを行えるよう支援。

Strategyは5つのワークストリームにわたり30人のコンサルタントを配置し、まず徹底的な監査を実施することで、どのレポートを再現し、再設計し、あるいは廃止すべきかを明確にしました。

成果：

- 5つの重要なアプリケーションを期限内に納品
- ユーザートレーニングを含む円滑な引き継ぎを実現
- デュアルランによりリスクを最小化し、信頼を構築
- Strategy Oneセマンティックグラフによりデータ再利用を簡素化
- マネージドクラウドを活用し、長期的な保守性を確保

要件変更、未完成のデータモデル、複数のステークホルダーグループといった課題がありながらも、チームは導入目標を達成しました。重要なダッシュボードはStrategy One上で再構築され、サービス中断なしに稼働を開始しました。並行稼働により移行の妥当性が検証され、ユーザートレーニングとクラウド移行によって長期的な保守性も確保されました。

“ 「広告売上レポートの成果物の完成に向けて尽力してくれた皆さんの努力、そしてそのレポートが提供する可視性に深く感謝しています。」

- ビジネスオペレーション担当VP兼広告セールス担当チーフ・オブ・スタッフ

次のステップ

現在レガシーBIプラットフォームを使っているのであれば、すでに兆候は表れています。レガシーBIプラットフォームは、もはや時代に追いつけていないのです。段階的に廃止されつつあるのかもしれないし、あるいはチームが迅速に動くために必要な機能を提供できていないのかもしれない。いずれにしても、何もしないことこそが最大のリスクです。

今こそ選択肢を検討し、最小限の混乱で最大の長期的価値を実現できるパートナーを見つけるべき時です。

Strategy Oneはそのためのプラットフォームを提供し、コンサルタントは豊富な経験で支援します。残すべきものと廃止すべきものの切り分けから、ユーザー再教育、継続性の確保に至るまで、私たちはすでに数多くの現場で実践してきました。

BI移行を成果につなげましょう。

まずは当社の専門家にご相談ください。

レガシーシステムが足かせになっていませんか？ Victoria's Secret、Hilton、Crate&Barrel、ZebraがモダンBIで業務を変革した事例をご覧ください。同じ一歩を踏み出したときに実現できる可能性を確かめてください。